

# すべては日本の健康を守るために

日本医師会は国民に過不足のない医療が提供できるよう、国に適切な医療費の確保を求めています。

世界有数の長寿国・日本を支えている、高度できめ細やかな医療体制。  
その中心で活躍する日本の医師たちは、それぞれに困難な事情や課題を抱えながらも、真摯な思いで患者と向き合っている。



## 現場の“覚悟”が支える救急医療

消化器外科医 猪口正孝氏



いま私の仕事の中心となっているのは「救急医療」。何台もの救急車が立て続けにやってくることもありますし、長時間連続での勤務も珍しくありませんが、どんなときも可能な限り「断らない」というのが信条です。たとえ仕事を終えるべき時間が来ても、もし目の前に交通事故などで危険な状態に陥った患者さんがいれば、治療しないなんてありえない。現場にいる医師たちは、皆その覚悟で働いていますよ。

東日本大震災を経験して以後、私の病院は「災害拠点病院」として、自前の救急車の導入や増床に取り組んでいます。いずれも大きなコストを要するものですが、いざという時に地域の皆さんを守ることも私たちの使命なのです。

## 時代に応じた進化が求められる小児医療

小児科医 松平隆光氏



子どもたちを診察していると、一見軽い症状のように見えて、実は肺炎や髄膜炎のように重大な病気が潜んでいるケースが少なくありません。それを見落とすことなく発見し、より専門的な医療機関へとつなぐ“門番”としての役目も、小児科医に課された重要な仕事です。

近年は予防医学の発展によって感染症による受診件数が大きく減少した分、「心の問題」への対処が大きな課題となってきました。発達障害などを抱えた子のケアにおいては投薬などの治療だけでなく、周囲の理解や環境づくりが重要になるため、学校や自治体などとの連携にも取り組んでいます。少子化時代といっても、小児科医の仕事は山積しているのです。